

様式 (7)

報告番号	甲 保 第 61 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	佐藤 浩子
題 目	Differences in Changes in Game Usage Time and Game Use-Related Factors Depending on Parity in a Prospective Study of Pregnant Women in Japan (日本における妊婦の縦断調査による初経産別でのゲーム使用時間とゲーム使用関連要因の変化の違い)
<p>目的：世界的にゲーム使用の拡大とともに、過剰なゲーム使用が生活上の問題となるケースも報告されている。そこで、妊娠中のゲーム使用の変化と日常生活行動やゲームに対する思いとの関係を初産婦・経産婦別に検討し、ゲーム使用を継続する妊婦の特徴を明らかにすることとした。</p> <p>方法：妊婦健診を受診した妊婦を対象に縦断調査（妊娠初期・中期・後期の計3回）を実施した。調査内容は、基本属性、ゲーム使用状況、日常生活行動とゲーム利用に関する思い、Internet Gaming Disorder Scale (IGDS) とし、オンライン質問紙調査によって行った。妊娠初期にリクルートした645人のうち、3時期全てに回答した238人のデータを統計学的に解析した。本調査は徳島大学病院医学系研究倫理審査委員の承認 (No. 3945) を得て実施した。</p> <p>結果：妊娠中にゲーム使用を継続した妊婦は59名、ゲーム使用の有無が変化した妊婦は63名、いずれの時期にも全くゲームを使用しなかった妊婦は116名であった。ゲーム使用を継続した妊婦において、初産婦のゲーム使用時間は初期から後期にかけて有意に増加したが ($p=0.022$)、経産婦のゲーム使用時間に有意な変化はなかった。また、ゲーム使用時間は、初産婦は経産婦に比べて妊娠初期と妊娠後期に有意に長かった ($p=0.021, p=0.004$)。ゲームへの依存が高いとされるIGDS得点が5点以上の妊婦は妊娠初期に1名のみで、いずれの時期においても初産婦と経産婦の間にIGDS得点に差はなかった。妊娠中にゲーム使用を継続した妊婦は、パートナーのゲーム使用割合が初産婦・経産婦ともに有意に高く、規則的な睡眠を有する初産婦の割合は妊娠中期と後期で有意に低かった。また、自分はゲーム依存かもしれないと思う初産婦の割合は妊娠期間全てにおいて有意に高く、妊娠や子育てのために満足にゲームができないと思う初産婦の割合は妊娠中期に、経産婦の割合は妊娠初期と後期で有意に高かった。</p> <p>結論：ゲーム使用を継続する初産婦は妊娠後期にゲーム時間が増加し、妊娠中期から後期には規則的な睡眠がとれていなかった。ゲーム使用を継続する妊婦はパートナーのゲーム使用割合が高く、自分がゲーム依存かもしれないという思いと満足にゲームができないという思いを持ち、心理的にアンビバレンスな傾向があった。妊娠中にゲーム使用を継続する初産婦については、パートナーと一緒に話し合い、ゲーム使用と日常生活のバランスを改善できるよう支援することが必要である。</p>	